

流域治水プロジェクト 取組み推進に向けての対応方針

令和5年3月3日
遠州流域治水協議会

流域治水プロジェクトを推進していくにあたって、各構成員における課題と対応状況について確認された。(議事4、資料-4)



これらの課題に対して、流域治水協議会として
どのような支援ができるか？



そのために…

■各構成員の課題について、課題の原因に応じた分類を実施

- ①事業連携(行政間、事業間)に起因する課題
- ②地域連携(合意形成)に起因する課題
- ③事業費に起因する課題
- ④維持管理費に起因する課題
- ⑤工期
- ⑥技術的課題(施工技術)
- ⑦技術的課題(維持管理)
- ⑧技術的課題(整備効果の検証)
- ⑨その他

■協議会(幹事会、分会)で意見交換、議論により対応方策を検討

- ・(例)残土処理に関する、事業連携方策を、流域治水協議会として打ち出す。
- ・災害時、災害復旧時における協力関係を協議会として明確に打ち出す。 等

■協議会として対応方策をフォロー

- ・情報共有
(全国的な事例紹介、好事例等の水平展開)
- ・技術紹介
- ・窓口仲介
(構成員間の連携の推進) 等

■各構成員において対応方策を検討

- ・予算確保
 - ・工期の確保
- 等

①事業連携(行政間、事業間)に起因する課題

③事業費に起因する課題

②地域連携(合意形成)に起因する課題

④維持管理費に起因する課題

⑥技術的課題(施工技術)

⑤工期

⑦技術的課題(維持管理)

⑧技術的課題(整備効果の検証)

⑨その他

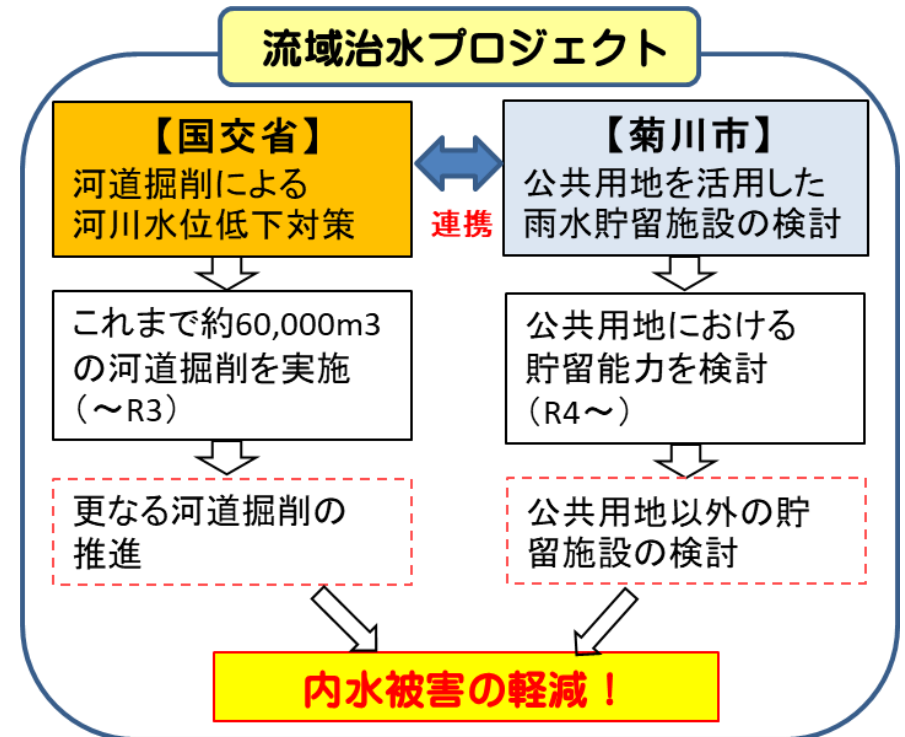
流域治水協議会の枠組みを活用した
課題の解決、流域治水の推進

(相談窓口の設置、課題に応じた弾力的な分会の開催、事例集の作成等を検討)

(参考) 流域治水の実践・深化【菊川水系牛淵川流域の内水被害の軽減】

■菊川水系牛淵川支川の黒沢川流域は、内水による浸水常襲地帯であり、令和2年の台風第19号による出水では近隣の岳洋地区で、床上浸水22件、床下浸水59件の被害を受けている。

■内水被害軽減に向けて、菊川水系流域治水プロジェクトに基づき、国土交通省は河道掘削による河川水位の低下対策、菊川市は公共用地等を活用した雨水貯留施設の検討を実施し、本地域における内水被害の軽減に向けた取り組みを連携して実施している。



既に発現している事業効果 ※整備計画流量270m3/s
※速報値による。詳細な効果は検証中

令和2年 台風第19号		
堂山水位観測所 流量(水位)	平田観測所 雨量	内水被害(岳洋地区)
240m3/s(5.48m)	360mm(時間最大53mm/h)	床上浸水22件、床下浸水59件

内水被害が減少!

令和4年 台風第15号		
堂山水位観測所 流量(水位)	平田観測所 雨量	内水被害(岳洋地区)
321m3/s(5.39m)	219mm(時間最大78mm/h)	床下浸水5件

(参考) 流域治水の実践・深化【菊川流域における田んぼ貯留の効果検証】

- 令和4年9月23日～24日にかけて、菊川支川と惣川において田んぼ貯留実証実験を実施し、圃場内の貯留効果や排水先のピーク遅れ効果を実測で確認しました。
- また、解析モデルにより排水先水路や惣川での水位低下効果を算定しました。

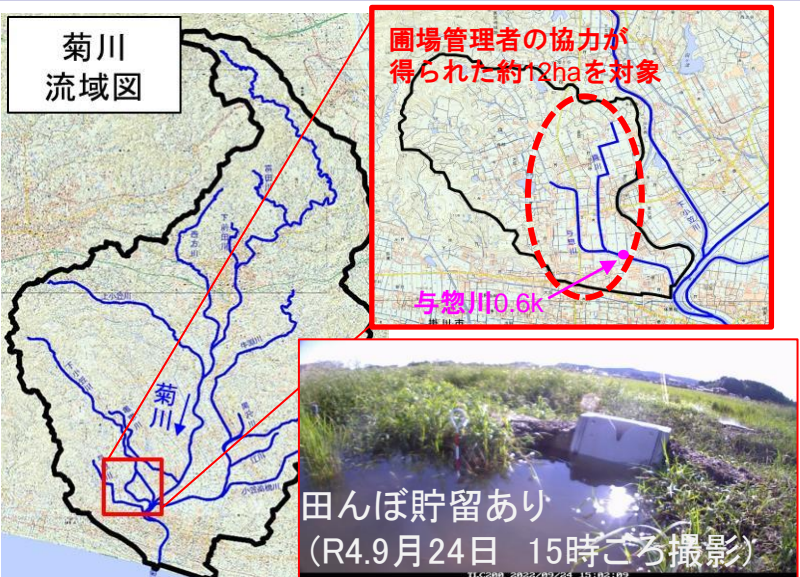
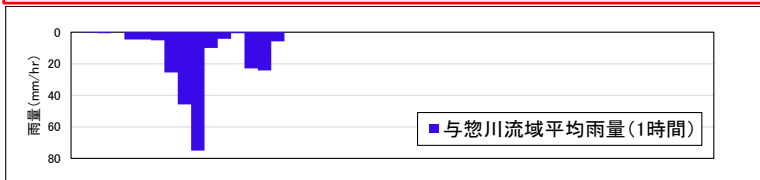
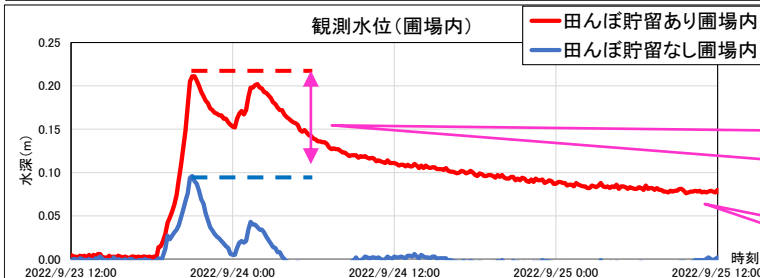


図 田んぼ貯留実証実験位置図と実験の様子

圃場内の貯留効果(田んぼ貯留有り無しの比較)【実績】

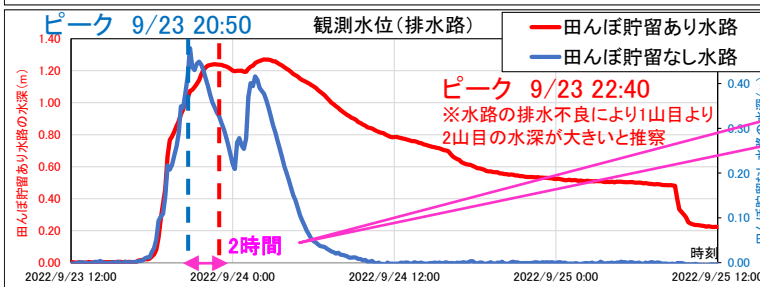


※流域平均雨量は入山瀬観測所と平田観測所の雨量より算定



今回対象とした圃場では、田んぼ貯留ありの場合は、田んぼ貯留なしに比べて圃場内の水位で12cm、1.7万m³の貯留効果を確認した。

洪水後も貯留効果を発揮。

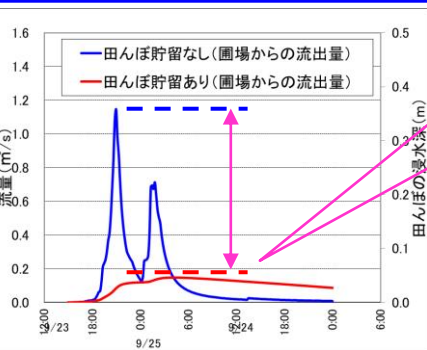


田んぼ貯留ありの場合は、田んぼ貯留なしに比べて排水路の洪水ピークを約2時間遅らせる効果を確認した。

田んぼ貯留による河川での水位低下効果は1cm未満であると推察された。

図 与惣川流域の雨量および観測所雨量より算定

河川や水路の水位低下効果(田んぼ貯留有り無しの比較)【解析】



田んぼ貯留により圃場からのピーク流出量を約9割削減できたと推察された(真川付近の圃場を合算して評価)。



河川や水路で効果を算定

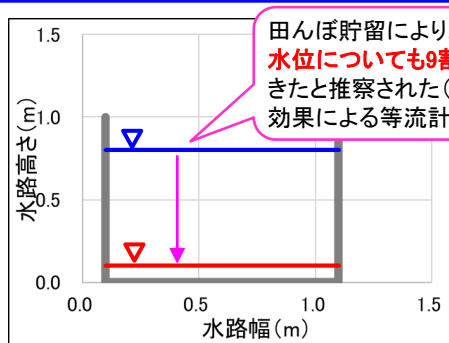


図 水路の水位低下効果(試算)

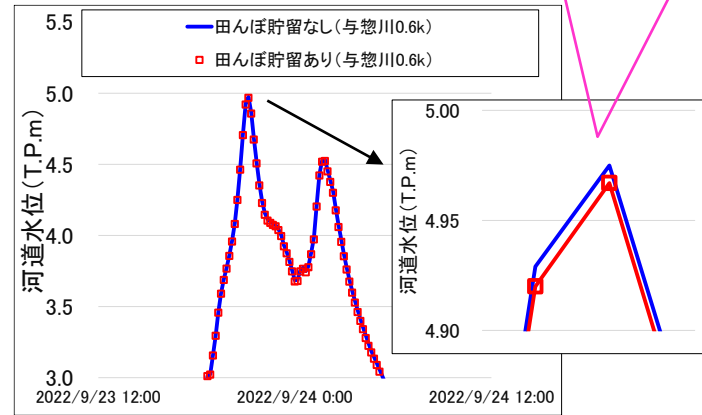


図 与惣川0.6kの水位低下効果

(参考) 流域治水の定義・深化【静岡県 重点対策流域】

- 静岡県では令和2年度から、「流域治水」に取り組んでいる地区のうち、特に浸水被害が著しい県下10流域（14地区）で気候変動も踏まえた被害軽減対策として「水災害対策プラン」の策定に取り組んでいる。
- 令和4年の台風15号による浸水被害を踏まえ、これまでの水災害対策プラン対象流域に今回被害の大きかった5流域を加えた県内15流域を「重点対策流域」に位置付け、「流域治水」を強力に推進

【取組内容】 ・気候変動の影響に加え、台風15号の被害の状況や要因を踏まえ、長期的な目標と短期的な目標を設定。
 ・効果的な浸水被害軽減策の検討を行い、減災対策のプランを取りまとめる。
 ・プラン策定後は、協議会において関係者間の情報共有や対策の進捗管理を行っていく。

【スケジュール】 令和5年度の上半期を目途にプランとして取りまとめる予定。

表 「重点対策流域」一覧表

番号	流域	河川名(地区名)	プラン	台風15号
①	狩野川中流域	狩野川中流域、大場川左岸	○	
②	富士川流域	沼川・高橋川、江尾江川 伝法沢川・和田川・小潤井川	○	
③	興津川流域	興津川		○
④	庵原川流域	庵原川		○
⑤	巴川流域	巴川		○
⑥	安倍川流域	丸子川		○
⑦	瀬戸川流域	石脇川	○	○
⑧	高草川流域	高草川	○	○
⑨	小石川流域	小石川	○	○
⑩	栃山川流域	黒石川 栃山川・木屋川・成案寺川	○	○
⑪	坂口谷川流域	坂口谷川	○	○
⑫	太田川流域	袋井市中部、敷地川 ぼう僧川・今ノ浦川	○	○
⑬	馬込川流域	浜松市南部 馬込川上流・中流	○	○
⑭	天竜川流域	安間川、一雲済川	○	○
⑮	都田川流域	堀留川		○

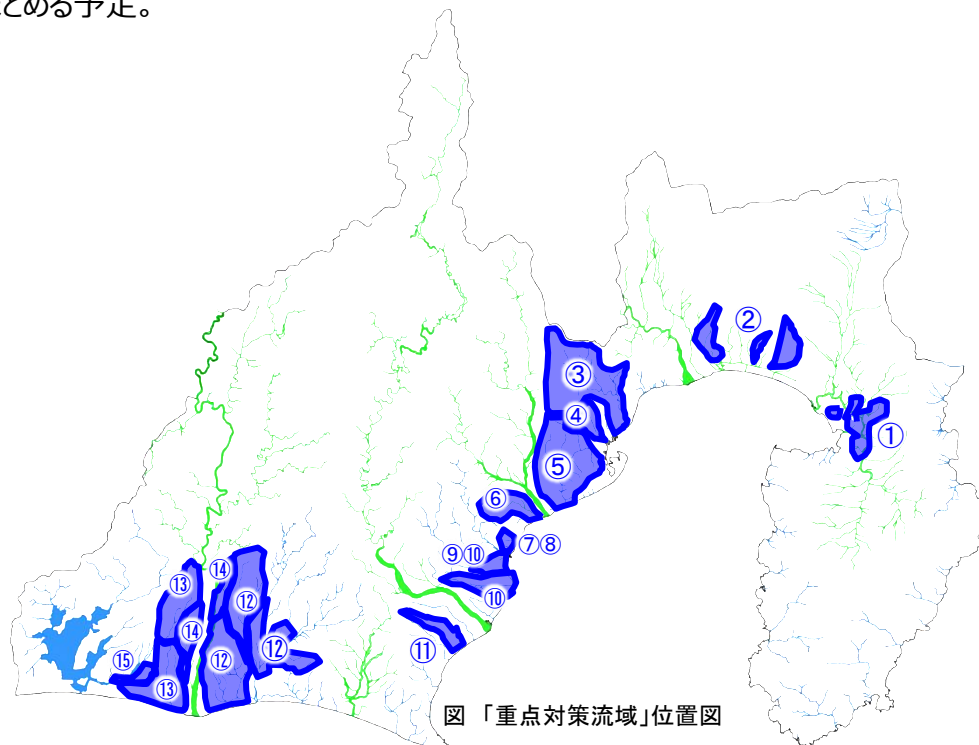


図 「重点対策流域」位置図

表 水災害対策プランの長期対策と短期対策について

長期対策	気候変動による将来予測を考慮した降雨量に対して、河川対策や流域対策のハード対策と、水害リスクの高い地域からの居住誘導などのソフト対策を組み合わせた効果的な減災対策
短期対策 (アクションプラン)	長期対策を見据えたうえで、令和元年東日本台風など、近年浸水被害が発生した地区等を対象に、床上浸水被害の解消などの目標を設定し、概ね5～10年間で実施するハード・ソフト対策

※プラン : 水災害対策プランの策定対象流域
 ※台風15号: 令和5年の台風15号で浸水被害が発生した流域